

第9回岡谷市公共施設のあり方検討市民会議

(平成19年11月29日19:00～21:00市役所603会議室)

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ

4 確認事項

- ・ 前回議事録の確認について 12月3日(月)までに連絡
- ・ ホームページでの募集意見について 会議までに意見があれば紹介

5 協議事項

委員長： 前回お伝えしてありますが、今日は9時までということで、前半に施設の検討をしていただき、その後、報告書の説明についての話をさせていただければと思っています。12月の中旬には、最終回のまとめという形でやっていきたいと思っています。

また、市民会議を1月以降も継続していくかどうかという話も出てきていますので、後で説明をいただいて、また皆さんのご意見をお伺いできたらと思っていますので、よろしくをお願いします。それでは検討に入ります。

1) 個別施設のあり方検討について

- ・ 蚕糸博物館
- ・ 美術考古館
- ・ イルフ童画館

委員長： それでは博物館、考古館、童画館の検討を始めます。

事務局： 資料の説明を一通りさせていただきます。今日お配りした資料を見ていただくと、カノラホールや、近隣のレザンホールなどがあります。近隣の状況を知りたいという話をいただきましたので説明いたします。

事務局： 前回、お話しにありました文化ホールについて、近隣の類似施設の状況と、管理運営経費にいくらかかっているのかを記載してあります。管理方法では、岡谷市を含め、指定管理者で管理をしているのは、岡谷市、須坂市、塩尻市、茅野市です。須坂、塩尻が岡谷と比較するのに同程度の規模だと思います。近隣では諏訪市の規模が小さくなっています。差引のところには管理経費と運営経費があり、施設により項目は異なります。自主事業補助金が、飯田市では、人形のまちづくりを行っているため、補助金の内容が他の施設とは少し異なっています。

事務局： ご覧いただきましたように、お金がかかっているということだと思います。次のページ以降は、カノラホールを管理しております岡谷市振興公社の中身が分からないという話をいただきましたので、折り込んでありますA3版は、以前の資料にも入っていましたが、振興公社全体が見えるようなものです。

今日お話しいただきますイルフ童画館、ロマネットは、振興公社が管理をしております。その他にカノラホールもありますし、公園の管理もしています。そんなことが見える資料になっております。

振興公社の決算では、一般会計と特別会計と2つの会計があります。後で説明させていただきますが、一般会計は文化会館や童画館、公園と岡谷市から委託を受けてやっている事業で、収入と、それぞれの管理経費があります。職員もどこの施設で何人の職員が振興公社で管理にあっているかも見えます。

7ページには、公共施設ではなく、振興公社自体の事務局の経費も見えるようになっています。その後には、振興公社の事業報告書があります。今お話ししましたように、振興公社は、カノラホールの管理、童画館の管理、ロマネットの管理、公園の管理などを行っています。

25ページの自主事業に関する項目では、市から委託を受け、管理している建物以外に、振興公社が自分で企画して実施している事業があります。例えばカノラホールの文化事業として、ご覧のような公演を振興公社が企画して、チケットを売って実施しています。この部分については、市から文化事業補助金という形で補助金を出しています。

次のページには、飲食事業があります。ロビーの2階の部分であり、それも振興公社が独自に運営しています。34ページはイルフ童画館の売店や喫茶、35ページはロマネットで振興公社が実施している事業です。公社はこんなことも行っています。

38～39ページは、やまびこ公園の関係になりますが、緑化の関係でラベンダー園があり、あれは市ではなく、振興公社が植え、摘み取りを行い販売しています。39ページのセンターハウスイベント事業スカイライン・ミュージアムは、一般の車が並べてありますが、あれも岡谷市ではなく振興公社が自分たちで企画をし、車を呼んできて展示をしています。岡谷市から委託を受けている部分の管理事業と、それ以外に振興公社が独自に考えて実施している事業があるというところでご覧いただけるかと思います。今日話合っていたく、イルフ童画館やロマネットもこの中に含まれていますので、参考にご覧をいただければと思います。よろしくをお願いします。

委員長： 今ご説明いただきました件について、意見をお願いします。特になければ、検討していく中でこの内容も踏まえ、また質問事項があれば出していただければと思います。

それでは、蚕糸博物館、美術考古館、イルフ童画館合わせてということで検討をお願いします。今皆さんのところに折り込んであると思いますが、矢崎委員さんが欠席で、蚕糸博物館、考古美術館、イルフ童画館についてのご意見をいただいておりますので、これも合わせて、ご意見を出していただければと思います。また蚕糸博物館については、色々な話が出てきていることを踏まえてお願いします。

委員： この前話をしましたように、病院との関連があります。病院ができた場合には、蚕糸博物館は取り壊しになるということはほぼ確定ですか。

事務局： そうですね。博物館の場所が建設予定地ですので、現段階の見込みとしては、壊さざるをえないです。病院を小さくすることもあるかと思いますが、駐車場確保などありますし、そういうことを考えますと、病院を建設することに決まれば、博物館、美術館は移転という話になります。

委員： 蚕糸博物館というのは、全国をみても岡谷市に一番しっかりした資料があると思うので、残してもらいたいと思いますが、新設までして残す必要があるのでしょうか。移転予定の農業生物資源研究所は使えるのでしょうか。

委員長： 今ある施設を上手く利用するということですね。今の施設は、どういう形態での運営でしたか。

- 委員 : 今の農業生物資源研究所は独立法人です。
- 委員 : 色々な古いものから、新しく生系を作るような機械まで色々なものが稼動しています。それを建物から機械から全部壊してしまうという予定なので、これは非常にもったいないことだし、できれば今の博物館は展示だけなので、農業生物資源研究所へ移転すれば、動く博物館という形にできるスペースもありますし、機械もありますから是非そんな形でやっていただけないかということです。維持費はかかりますし、広い分費用もかかるということで、市の方では大変な部分もあるかと思いますが、大型バスも入れ、お金を落としてもらえるように併設で、食でもいいですが、人を呼べるようなスペースがあるものから、そんなことも含めて、そこへ移転したらどうでしょうか。
- 委員 : 昔は蚕糸試験場だったのですか。
- 委員 : そうです。国の施設で運営されていました。
- 委員長 : 建物的には私も中へ入ったことはありませんが、年代は経過した建物ですよ。
- 委員 : 多少の手直しは必要だと思いますが、十分使えると思います。
- 委員長 : 矢崎さんの意見にもありましたが、岡谷のアイデンティティーとして誇りをもって維持すべきであるとか、野麦峠のイメージを払拭することを踏まえ、もう少し違った形にしたらいいな気もします。
- 委員 : 今の岡谷絹工房は昔の清水工業のところへ移転しているので、多分その関係のところへ博物館も、将来移転というような市の計画の中であると思います。しかし、せっかくの機械や展示品を移した場合は、スペースが十分ではないので、できたら広いところで、色々なものを見てもらったり、お金を落としてもらったりできるような施設の併設も十分できるということで、農業生物資源研究所に移転したらどうかと思います。
- 委員長 : あそこに集めると、今の絹工房も移転して一箇所に揃えるということもいいですね。
- 委員長 : 蚕糸博物館というのは、岡谷が発展した時代の歴史を展示している施設です。そのあたりを強く出せればという感じはします。
- 委員 : できるだけ経費をかけない形で運営していく必要があると思います。実は私は、熊谷で工場跡地をショッピングセンターにしましたが、倉庫を2つ残して、シルク記念館という形で今展開をしているのですが、我々の年代と違って、若い人たちはほとんど見学に来ない状況です。岡谷市の方が、シルクに関しては関心を持っている方が居られると思います。でも実際はなかなか難しいとなると、経費削減で、どう維持していくか、今よりさらに経費をかけないやり方はないのかどうか。それを検討していくべきかと思います。熊谷は4億5千万円かけて建て、ほとんどお客さんはお見えにならない。ショッピングセンターですから、だいたい年間400万人～500万人のお客さんがお見えになりますが、入館率は悪いという話を聞いています。
- 委員長 : 展示してあるものも、若い人の興味をひくとなると難しいものがありますね。
- 委員 : 我々の年代が見ると、“ああ”というものがあるのですが、若い人にはちょっと感覚が薄れてきているようです。だからといって、現状として岡谷市から蚕糸博物館をなくしてもいいよと申し上げられないというのが今の気持ちです。
- 委員長 : 他にどうですか。
- 委員 : 私は、蚕糸博物館は大事なものですので、できれば産業観光という感じで利用できればと思います。あと、岡谷は郷土資料館というのがないのですね。それも兼ねたらどうかと思います。

委員： 岡谷のこういう歴史というか、何も無いところからあれだけの日本の産業の発展の基になったパワーというかポリシーを、今の子どもたちにしっかり教えるということが、これからの岡谷市の発展にも繋がるし、先人の何とかというように「わぁ～すごいな！」というのを植えつけないと思っています。今シルクは、化粧品になるなど色々な使い方がありますから、そんなことを上手に利用し、産業とか観光などと結びつけてやっていければと思います。経費は必要とは思いますが、複合的な考え方が必要だと思います。駅の南側は複合館の構想がありましたが、その辺りも関連してくるかもしれません。

委員長： 今岡谷で残っている歴史的なもののまとめとして、蚕糸博物館が中心にあり、周辺のものでネットワークで上手く繋がるような、そんな形ができればいいのかなと思います。今の蚕糸博物館は、そのあたりのインパクトがないですね。何か核があり、それを繋げていければおもしろいと思います。

委員： 蚕糸博物館は、農業生物資源研究所か、現在の消防署が移転する計画もあるようですから、あの建物を蚕糸博物館にしたら魅力があると思います。その中にあると、建物と中身が一体になって、経費も、建設よりはかからないと思います。ただ古いので補強に費用がかかるかもしれないですね。

委員： 消防署は美術館っぽいという話がありますね。

委員： 美術館にはとてもいい建物かと思います。しかし、相当古いものですから、補強も新設と同じくらいかかるかもしれません。

事務局： 建物自体はしっかりしています。ただ使い勝手として美術館にするには耐震改修が必要で費用がかかってしまいます。空調や照明、そういったものにもかかります。

委員： 新設といくら差が出るかですね。もう一つは、運営面ですが、蚕糸博物館で2か月～3か月に1回発行している本があるのですが、私はそれを買って人に送ってあげることがありますが、非常に評判がいいです。1冊1000円で買うことができます。この本は非常にいいのですが、知名度がないです。

委員： 僕も違うところで同じことを言われました。いい本なので送ってほしいと言われたことがあります。わりと皆さん知らないですね。

委員： ですから、内容は非常にいいわけですから、もう少し宣伝だとか、業界へ流すとか、なんとかそれで採算を保てるような発行部数にしたらどうかと思います。中身はいいものですから。産業衰退とともに、静かになってしまい、もったいないような気がします。

事務局： 昔の女工哀史のイメージを払拭する、岡谷の製糸の歴史を正しく伝えたいというものがあって、発行をしています。

事務局： やはり専門性が高いものですから、あまり売れないということで、発行部数も少なくなってしまいます。対象は専門なり、興味を持っている方に限られます。

委員： 昔の製糸工場の発掘をすると、薬のピンが出たりします。そんなことは意外と知らないですよ。野麦峠とは全くイメージが違うということがあります。

委員： 世論性が高すぎるという部分もありますね。

事務局： うまく編集なりして、一般の人も読みやすいような内容が入ると、また一般の人が読みやすくなりますが、専門性も必要な部分だと思います。

委員長： 集約しながらやっていくのは、岡谷の蚕糸のアピールにもなりますが、どう見せていくかということもありますね。民間で売るところを作って、絹工房の製品を売るとか、上手く繋げていけば面白いと思います。

委員 : しかし、利益を出そうとして、市の持ち出しが逆に増えては困ります。せいぜいとんとんになる位だったら、いくら発行してもいいですが、持ち出しになるようなことだと考えてほしいと思います。

委員長 : 蚕糸博物館については、一つの方向性ができたというような意見とします。このあたりを運営面も踏まえて、いかにまとめていくかということですが、これからの運営の仕方をどうしていくかだと思います。

委員 : 是非今あるものを残してもらいたいと思っていますが、一方で市の財政状況も分かっているのです、そうなった時に今以上に負担をかけるようになっては困ると思います。一般的に、どう運営していくかまでは検討していません。

委員 : 私も製糸の会社にいたものですから言わせていただくと、若い女性は「もうシルクなんかいいよ」という意見もあるかと思いますが。

委員 : 私の母も若い頃、糸を取ったことを自慢話するような世代です。でも私たちの世代はそういうことをあまり勉強しなかったように思います。だからHPなどを見ると、まだ博物館に機械が置いてあるんだと驚きます。岡谷ってすごいなと思っているのですが、子どもたちは、理科学的な分野でお蚕さんを飼って、繭をとるみたいなことをもう少し勉強していると思います。産業として岡谷っていうのはこんなにすごい機械を持っていて、大勢の女の人が働いて、その働いた女の人たちの流れで、岡谷の女の人は今も働く人が多い。

岡谷の保育園というの、その働く人たちのためのもので、市でこんなに保育園を持っているところは全国で岡谷しかないくらいです。ほとんどは幼稚園が占めているのに、岡谷は保育園が市で運営という動きがこんなに主流というのは、昔から女の人が働いている流れで、こういうことになっているという話を聞いて、なかなかすばらしいなと思います。しかし、それを学校では教えないし、私たちも子どもには教えないし、そういうことにもっと力を入れていくと、何か底辺から動いていくように思います。

委員 : この問題に限らず考えてみましたが、合併するとか、廃止するという前に、岡谷市として何をメインにするのかを、まず一番に考える必要があると思います。今まで採算性だけで善い悪いを議論してきましたが、特色を考えずに進めると、他の市と同じになってしまいます。岡谷の魅力として何かポイントづくりが必要だと思います。

諏訪地方は精密機械のイメージであり、岡谷はそれに製糸をプラスできます。学校や保育園でも蚕を飼っていますが、それが子どもたちと産業に繋がっていません。精密関係のものは、こうやってオルゴールができる、こうやって時計ができるというように子どもたちの中にも産業に結びついているので、そこを上手くやっていけたら、それが特色なのかなと思います。公共施設の検討もここまでしましたが、もう一度市で考えていただく時にも、特色を出してもらって、そこだけを大事に作り上げていくと、もう少し丁寧にできるかなと思います。

委員長 : 岡谷らしさというところも蚕糸関係だと思います。先ほどから皆さんの意見も、きちんと残しながら、という話でした。教科書からもなくなってしまい、教えなくなってしまいました。20代の方でも岡谷の製糸を知らない方が増えてきていると思います。大きな産業を作ってきましたから、その点では女性も働くというところを踏まえても大きな影響がありました。

委員 : 10年、20年後を考えた時にスケートの発祥の地だとか、シルクの町というイメージが

後世にどのように伝わっていくか、10年は守れても20年後には気をつけないと全く消えていく可能性があると感じられます。どういうふうイメージの戦略を持ってやっていくかという意見がありましたが、その辺りも、すごく大事だという気がします。このままでは風化します。おそらく市民全体の意見を聞いても、若い世代というのは案外淡泊に考える可能性があることを思います。

委員長： 作っていかないと、ただ終わってしまうという気がしますので、テクノプラザと関連付けていくのも一つの案かと思います。岡谷のある年代以上は、皆こだわって持っているイメージですから、市が民間の意見なども踏まえて出していけば、回復や維持ができるのではないかと思います。

委員： しっかり考える必要がありますね。22年の3月で生物資源研究所は移転の予定で期限があるので、焦っている部分もあって、なんとしてもという気持ちで聞いていました。今の意見を聞いて、その後のことも考えていかなければと思いました。

委員： 長野県の史跡を調査するリストがあり、岡谷のところを見てみると、ほとんど製糸の物件です。丸山タンクや間下のタンクなどで、そのあたりを上手く残しながらいければと思います。核がしっかりしていれば、そういうことを関連付けながらアピールしていくことができるのかなと思います。

委員： そういう人がひょっとしたら、出てきそうな気がしませんか。岡谷の製糸業を興していく会みたいな感じで。そうすると私の母の世代なので、これはなくしちゃいけない、残していかなきゃ、という人たちがいるような気がします。例えば、退職された方でいそうな気がします。

委員： ボランティア観光ガイドみたいなものがありますね。

委員： 一生懸命仕事をしてきたことだから、このままではいけない、なくしちゃいけないという方がきついていると思います。

委員： そのあたりと上手く合致できれば、蚕糸岡谷という観光産業も起きるのかなと思います。

委員： 先ほど20年後が非常に危険というお話もありましたが、10年というものはある程度運営のやり方によってはいけると思います。蚕糸博物館には、片倉から950点ほど蚕糸の関連資料や機械を寄付してあるはずですが、ところが現実的には10点くらいしか展示していないと思います。ですから、残りの900何点はどこにあるかといえば、倉庫の中にあるかだと思います。そういうものを運営上の問題で、今はこんなものを展示していますよ、今日は、とぐるぐる回していくと、10年もつか分かりませんが、そのくらいはいけるかだと思います。

委員長： 今の蚕糸博物館ははっきり言って、展示もできないくらいですね。

委員： 片倉だけでもそれだけの機械が寄付されていて、他からも相当の量の資料や機械が寄付されていると思います。そうすると、何千点というものがあるはずですから、それを展示し市民に見てもらい、当然入館料を取るわけですから、そういったことをやっていけば少しでも負担が減るような気がします。

委員長： 蚕糸博物館の関係をまとめていくと、これは存続していくということで、運営の仕方と今のものを踏まえて、一つ核となるものを作って岡谷というものをアピールしていったらどうか。これについては統廃合云々というよりは、見方を変えて、アピールをしていったらどうかということですね。

それに併設されている美術考古館、またそれに関連して、イルフ童画館についてもお願いします。

私も以前言いましたが、美術館については、あの状態では絵を飾って鑑賞する環境ではないので、私はイルフ童画館というのをイルフ美術館なりに名前を変えてでも集約できればいいのかなと思ったりもします。一時期は特定のところに、という話もありましたが、色々考えると、イルフ童画館のところに集約するというのは、両方を見ることができていいのかなと思います。それについてはどうでしょう。

- 委員 : 私もイルフ童画館にそれだけ飾れるボリュームがあれば、それがいいと思います。
- 委員 : 3階が武井武雄さんのもので、2階は企画展をやるようなところですね。1階はどうなっているかわかりませんが、蚕糸博物館の上もそんなに大きくはないですね。環境も悪いですし。
- 事務局 : 童画館の2階は日本や世界の童画を展示しています。目的を見直して、幅広く使えるようになっています。
- 委員 : 1階の「はらっぱ」はどんなところですか。
- 事務局 : 本を自由に見たり、工作ができるスペースがあります。そこは無料で、自由に入出りできます。先ほど市民からボランティアというお話をいただきましたが、「はらっぱ」を管理運営するボランティアの方がいて、企画や工作などをやっています。
- 委員 : 行くと誰もいない状態がほとんどです。やっていることも図書館と似ているので、どうしてもあそこに必要とは思いません。だったらあそこに美術関係のものを入れればいいと思います。すぐもったいないと思います。
- 委員 : それなら隣のカルチャーセンター4階の、子どものくんに移した方がいいと思います。あれだけのスペースが必要なかどうか疑問です。
- 委員長 : 童画というものは、繰り返し見に来るとか、リピーター的にくるといことが、どうなのかということだと思います。
- 委員 : どうせ無料だから、いわゆる市民のギャラリーという感じですね。
- 委員 : 結構喫茶店の売り上げもたいした収入はないですね。それを考えると、人はいらなかなと思います。4月で3万5千円しか売り上げていないので、そうやって考えると向かい側に喫茶店もありますし、その辺りを踏まえながら、スペース確保することもできるのかなとも思います。
- 委員 : 喫茶店もほんとおいしくて、行列ができるようなものがあればいいですね。現状では単なるコーヒー、標準的なコーヒーが出されるだけなので、何の魅力もないですね。
- 委員長 : 他にこれを踏まえてありますか。
- 委員 : 色々な問題はあろうかと思いますが、方法としてはそれでいいと思います。
- 委員長 : では、童画館という枠を変えて、美術考古館のようにできればという点と、はらっぱ等を踏まえて、今の状況を見直していったらどうかということによろしいですか。
- 委員 : はい。

・ ロマネット

- 委員長 : では、次にロマネットの検討を行いたいと思います。ロマネットについてはどうでしょうか。あの施設は完全に民間に出したらどうでしょうか。

委員： ロマネットについては、この前のお話では、減価償却の考え方が無いという話を伺いましたので、それで利益が出ないのはおかしいという気がします。例えば500円でやっているのは大芝の湯、長田の湯、茅野市のアクアランド茅野で、これは民間という話を聞いています。茅野市直営の黄金の湯は400円ということです。民間の水神の湯と高浜の下にある露天風呂は700円と、民間でも同じような金額で潰れないところをみると利益を出しているのかと思います。なぜ岡谷市だけ出ないのかなというような気がします。一方では下諏訪の、湖畔の湯、旦過の湯は、もちろん規模が違いますが、220円です。持ち出しがあるのかと調べてみようかと思ったのですが、残念ながら仕事を持っていますので、直接伺うことはできなかったのですが、疑問としては民間は償却の考え方があっても利益が出るのに、ロマネットは何故利益が出せないのでしょうか。

委員長： それなりに運営されているのではないですか。

委員： ロマネットのやり方はどうなのかなと思います。

事務局： 基本的には、ロマネットは利用料で運営されています。もちろん大きな改修費用は市が出していますが、通常の運営は民間と同じように入湯される方の料金でまかなわれています。現状からは赤字でないと言えます。

委員： 乳幼児の関係のプールとか、教室のようなことも行っていましたか。

委員： ここは温泉施設だけではなくて、プールがあることでお金がかかっていると思います。最近800円から600円に金額が下がったのですが、ロマネットのサウナは男性にとっても人気があります。私たちの旦那さんの世代の20代、30代、40代で、夏にロマネットのサウナに行くという人が結構います。ロマネットは10時からプールに入れます。朝風呂は9時半までなので、1度10時まで入れなくなります。そして10時に開いた時点で、お風呂の人とプールの人が入ることができませんが、時間の枠があり、ここをクリアしないとダメです。今ゼミスイミングが6市町村の中ではロマネットしか使えないので、スイミングクラブに入っていない人はこのサークルに入っているのですが、その10時からしかプールの人は入れません。そして10時には教室が入りますので、10時半から11時半というのはだいたい毎日一般の人が入れないようになっています。それが例えば、こういうものを、10時までで終わるといって、10時から一般の方が利用する形がいいように思います。

ここにベブースイミングの人数がでていますが、これしかないの、と感じました。うちは心健子育てというサークルですが、回数26回でだいたいこの人数で、他のところもみると、なぜこの回数でこれしかないのかと思います。このロマネットベブースイミングというのは市が主催しているので毎回30人定員というところが、倍率は5倍近いのでくじ引きで決めます。ということは30組が毎回きているはずですが、それは疑問に思ったのですが、だいたいうちのサークルは25組～30組を前後してしまうので、この数字で出てきています。

もう一つは、やまびこさんは昼間9時～10時と夜7時～8時というのが大人の教室で入れています。それもいいのですが、丸いプールのために指導が行いにくく、水位が高いために受講者が動けないところがあるので、あの水位の改善をすると、もう少し使い方があるかと思います。諏訪湖ハイツの中のお風呂を障害者用にしていますが、その関係がもっとここに入ってきてもいいと思います。要はプールということで、足が不自由な方でもできるリハビリが沢山あり、一つロマネットになるかと思います。すわっくランドや、ア

クアランドの場合は、障害者というのは、NPO法人が場所を借りてやっているの、岡谷市は福祉をということで、子どもにしても、障害者にしても、そういうところを変えていくといいと思います。一般開放しているのがここ、教室をやっているのがここ、しっかり言えると、何時～何時は行っても大丈夫というのが分かり一般利用者も使いやすいです。

今のままだと、たまに遊びに来たけれど、ゼミをやっているの使えないとなると、あそこは良くなかったよ、というイメージを持っている人もいますかと思えます。その辺をもっと市としてきちんと分けて、うまく整理をしていただきたいと思えます。お風呂はとても良いので、使い方を考えていくといいと思えます。

委員長： ここはイメージとすると、2つとも埋没してしまっていて、どうして近くに同じような施設があるのかという意見になってしまいます。今言われるように福祉性を前面に出すことで、2つが違ったイメージになるのでしょうか。

委員： プールを使った教室みたいなものを色々入れていますが、基本的に健常者を対象にし、空いた時間に来られるようにするとか。岡谷市の場合は福祉関係で、ちょっと足が痛いという人が、ここへ来たら治ったというものを作っていくなど、特色を付けたものをロマネットで作ったらどうかと思えます。泳げるようなプールではないので、その特色という部分でゼミをやっている、高齢者もやっている、障害者もやっているとなると、あそこは泳ぐプールではないので利用者は分かっていだろうし、反対にすわっこランドは大きなプールで皆で歩くとか、そうすると子どもたちはすごく喜ぶます。そういうことを、すわっこランドの中でできると、イベントもできるでしょうし、ちょっと無駄な時間があるのかなと思えます。

委員長： 特色のアピールというのが、いまいまいち弱いですね。

委員： そうです。

委員長： そういうのが運営の仕方として、もっと出てくれば行きやすいし、扱いやすいし、利用しやすいですね。

委員： とてもいい意見なので、施設の利用の時にも出ましたが、知恵が足りないといいますが、せっかくあるものを有効に生かしてないということですね。

委員： また、専用で使える部屋というか個室があるといいと思えます。

事務局： 個室というのはお風呂の部分の個室ということですか。

委員： いいえ。部屋です。休むところはありますが、団体で休む感じです。空いているときはいいですが、よく個別で休んだり、お料理を食べたりするような場所がありますよね。

委員長： 他にはどうですか。

委員： 市民へのアピールの方法を考えた方がいいような気がします。

委員長： 温泉施設とくらわれてしまうので、そのアピールの仕方ですね。今の使い方というもの、例えば福祉関係など1つ作ってアピールすると、違うセリフで言えるような気がします。

委員： 乳幼児学級とか色々なところで、私たちが分かるようなものにしてほしいです。

委員長： 岡谷にあって、他のまちにないという形にするのがポイントですね。

事務局： ロマネットという名前からもイメージできると思えます。ローマ風のお風呂ではありますが、お風呂だけではありふれており、また敷地も限られ、建設費の関係で余裕がなかったという部分もあり、こういう状況になっています。

料金設定の関係は、建設当初、浴場組合から、安くされると困るので、できるだけ高くしていただきたいという要望があり、その駆け引きの中でこのようになりました。先ほども

でしたが、一旦終わって時間をきるといふ部分も、継続して利用していくと、浴場の収入が入らなくなるという意見がありまして、理解を得る中でこのような状況設定をしています。

委員長： 浴場組合もまだあるのですか。

事務局： まだあります。1日2～3回お風呂に入る方はいないので、朝風呂でいらっしやるともう夜はほとんど来なくなると、当時も今もそうですが、朝シャンということで、朝シャワーを浴びる方が増えているという裏背景もありました。

委員長： 今の形でいくと、一つのアピールの仕方、使い方に対して、ハイツとは違う施設であるということを考える必要があるということで、そこを繋げていくと、例えば完全に民営でやっていくということもあると思います。

委員： どんな施設もそうですが、使う方も変化していくものだから、それに合わせて施設もリニューアルしていくなど、時代に合わせて、ある程度交渉をしてやっていかないと見捨てられるということになってしまいます。

委員長： 先ほどのお話を聞いても、他のところにはないけど、これは岡谷だけだよというものがあるような気がします。そのあたりを考えてもらうことでどうですか。そのあたりのアピールの仕方、運営の仕方、まとめの仕方をうまくやっていただいて、岡谷の主役というのを考えてやっていってもらえればと思います。

委員： 参考までに、上諏訪の片倉館はロマネットより少し集客が少ないですが、今500円でやっています。これは民間ですから、固定資産税、金利、減価償却を全部負っています。それで何百万の利益を出しています。その面から、私としては収支面で、今全部公社に任せていますから、市の収入にはならないのですが、研究してもらって、少し預金してもらい大型の修繕も全部公社にやっていただき、市民の税金を使わないというようなことを考えていただきたいというのが、要望です。

委員長： そのあたりも考えて運営していただきたいですね。

委員： 経費を比較するような研究ができれば面白いですね。

委員： ロマネットは、ある程度岡谷市民のためにサービスデーだとか、そういったことをやるのであれば、少しは赤字になっても市民のためにいいと思いますが、現状としては全く企業としてやっているのだから、だったら市民の税金をなぜそこに使うのかという気がしています。

委員： 今日はこんないいことがあると集客するようなことができませんか。

委員： 振興公社を、利益を上げるような体制にしていきたいですね。

委員長： 飲食店も埋没していますね。今は分かりませんが、代金が高いという人もいます。アピールが少ない一つの表れなのかなとも思います。

事務局： 食堂の蕎麦屋さんの入り口も、道路の方から入れるようになって、そういうところは振興公社の自主事業という中で、知恵をしぼって工夫したところが見られますが、混雑するまでは至っていないですね。

委員： 確かに片倉館の方も民間ですから、利益をあげるためにも諏訪湖の花火だとか、敷地が広いものですから月極駐車場にするなど色々研究をし、できたらそういう研究を公社でもしていただいて、利益が上がるような運営をしていただきたいと思います。

委員： 片倉館はそんなに長い時間やっていませんね。

委員： 片倉館は9時から10時くらいまでやっていると思います。

委員：観光客が楽しそうにしている、旅館の宿泊客は浴衣で歩き、少しノスタルジックな感じですね。

委員：上諏訪温泉というと千人風呂というイメージがずっと出来上がっているものですから、僕らはそういうところで集客がロマネットより少ないとしても納得はできます。

委員：ただ、もう少しどうにかできそうな気がしてしまいます。

委員長：まだまだ施設の持っている可能性が発揮されていないということですね。それによって、先ほどの維持費配分もひとり立ちできるようなものを作っていただきたいということですね。

委員：利益を上げてもらいたいくらいですが、まあそこまでは言いませんので、市の持ち出しは無くしていただきと思います。

委員：まったくの余談ですが、岡谷の泉質は色々な人から聞いたのですが、実は同じ諏訪の周りで、突然出てきた温泉にしては、すごくいいと思います。岡谷市というのは、これもイメージの戦略として、徹底的に調べれば使えるのではないかと思います。もったいない気がします。

委員長：先ほどの蚕糸博物館もそうですし、イルフや今の温泉もそうですが、イメージ戦略といえますか、そんな戦略みたいなものがあれば違うのかもしれませんが。

まだ施設によっては意見の出されないところもあるかと思いますが、今日の施設につきましてはそんなことをお願いします。

2) 検討のまとめ・報告について

報告書の概要について

報告の内容について

- ・ 残りの施設分の検討内容
- ・ その他の施設に関する意見のとりまとめ
- ・ 市民会議の提案

報告書のまとめについて

- ・ 内容の調整、確認
- ・ 報告会 12月19日(水) 19:00~20:30 603会議室